

上田地域の特色を活かした 体験型・滞在型ツーリズムの推進について

1 上田地域の観光の現状と課題

- ・平成3年をピークに観光地利用者数、観光消費額とも全体的に低迷傾向が続く。
- ・平成28年NHK大河ドラマ「真田丸」放送の効果により利用者数は過去最高、消費額も近年にない伸びを見せたが、翌29年は再び減少に。
- ・日帰客が多く、宿泊客が少ない点は、全県的な傾向とはいえ更に顕著であり、また、県内客より県外客が多いという特性も全県と同じではあるものの、県外客が占める構成比は県平均より13ポイント以上低い（H29統計）。
- ・上田地域の豊富で魅力的な観光資源やそれを活かした関係者の取組が、観光客数や消費へとまだ十分に結びつけられていない可能性あり。
- ・「真田丸」効果で増えた観光客に向け、再度、上田地域に足を運んでもらうとともに、新たな信州・上田ファン（誘客）を増やすため、地域の強みを活かした地域一丸の取組、観光コンテンツの充実が急務。
- ・誘客数だけでなく、消費額を伸ばし、地域が潤うことで観光を通じた地域づくりを促進させるための取組として、特に宿泊を中心とした「滞在型」、地域内を巡る「周遊型」メニューの強化が必要。

《取組の方向》

高原・温泉等の観光資源、またその中で湯治・スポーツ合宿等が盛んに営まれてきた歴史的経緯・環境（注釈1）を最大限に活かし、旅をきっかけに心身がリフレッシュし、健やかになれる体験型（滞在型・周遊型）観光コンテンツの充実を図り、地域づくりに活かす。

2 経過

上田地域の温泉・高原・名所旧跡・食材等の地域資源を活用し、健康増進と観光を絡めた地域振興を図るため、平成29年11月、平成30年2月に、管内で取り組む事業者等を招いて懇談会を開催した。

議論の中で、本年度（H30）は、関係団体等を構成員とする協議会（事務局：県振興局）を新たに立ち上げ、同協議会が事業の推進母体となつて、地域全体で検討・実施を進めて行く枠組みについて賛同する意見をいただいた。（別添資料参照）

3 上田地域型ヘルスツーリズムの提案（設置趣旨）

ヘルスツーリズムとは「健康・未病・病気の方、また老人・成人から子供まで全てのの人々に対し、科学的根拠に基づく健康増進（EBH：Evidence Based Health）を理念に、旅をきっかけに健康増進・維持・回復・疾病予防に寄与するもの」と定義されており、類型（注釈2）は多様。（日本ヘルスツーリズム振興機構）

上記のとおり“ヘルスツーリズム”とは本来、健康増進に係る医学的・科学的見地を重視した定義付けがなされており、上田地域全体の共通の取組として掲げるにはやや専門的で一部の関係者による取組に限定されてしまう懸念がある。

当地域の取組としては、もう少し広い概念で「健康（づくり）」を捉え、旅（観光）を通じて心身ともに以前より元気になれるような各種メニューが充実した地域として、地域の個を磨き上げ、集約・連携・発信等を図ることで、多くの地元の関係者を巻き込んだ中長期的な取組に育てていきたい。

具体的には、地域内の各特性を活かしたグリーンツーリズム、農村体験ツーリズム、スポーツツーリズムなどの既存の取組も取り込んだ、広義の“ヘルスツーリズム”を「上田地域型ヘルスツーリズム」と称して進めたい。

この取組の推進母体として、官民学協働の推進協議会を立ち上げ、観光資源の磨き上げや発信力強化を行う。

具体的には、上田地域全体をひとつのテーマパークやデパート（以下、パーク）に見立て、その中に様々な健康づくりを体験できるアトラクションや健康関連商品を扱うブティック（専門店）《＝各地域の個の取組》が集積しているイメージ。

パークのデザイン《＝ゾーニング》や広告戦略《＝広報》を協議会で検討・推進していくことで、客の満足度向上を図り、滞在時間を延ばし、消費額の増を図る《上田地域型ヘルスツーリズム事業の推進》取組を想定。

➤協議会の名称（事務局案）

上田地域 健康パーク（上田地域型ヘルスツーリズム）推進協議会

